

氏名	西川 知亨
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>GCOE の次世代研究のプロジェクト、「地方都市における「貧困」に対する社会的組織化の研究—専門家集団 / 「当事者」による公共圏と親密圏の再編成」の研究代表として、公共圏と親密圏の再編成に関する調査研究を遂行した。具体的には、愛知県内の 3 つの派遣村実行委員会の活動（相談会、交流集会、親睦会、実行委員会など）や、それらの活動と深いかかわりをもつ「全国クレ・サラ・商工ローン・ヤミ金被害者交流集会」（約 1500 人が集結）と、その分科会（「派遣村」部会）、さらにそれにとまなう、韓国・台湾などのアジア諸国からの法律家などとの意見交換会への参与観察を行った。また、生活史法を用いて、「貧困」の窮状を訴えていた相談者へのインテンシブなインタビューを行った。さらに相談会における相談票分析など、派遣村活動に関する各種ドキュメント資料の質的・量的検討を進めた。これらの調査を通じて、「貧困」への対峙をめぐる公共圏と親密圏の再編成に関する質的・量的なデータを収集・整理（近年の社会調査概念における「作成」）した。その分析結果による主な成果は、以下の通りである。</p> <p>① フランクフルト学派に由来する公共圏分析（ハーバーマスからフレイザーらに連なる系譜）と、シカゴ学派に由来する親密圏分析（バージェスの友愛的・相互作用的家族論などを一源流とする系譜）を、シカゴ学派のひとつの意義と報告者が考える「総合的社会認識」を活用して絡み合わせることで、貧困に対峙する公共圏と親密圏の再編成に関する時間モデルと空間モデルを構築した。</p> <p>② そのモデルで示したのは、「貧困」問題を解決すべく専門家たちが構築した対抗的公共圏が、別の対抗的公共圏（や市場社会等）を巻き込みながら、もともと傾向として反発関係にあった国家・行政とも協力関係を築くようになり、さらには多元的な親密圏の豊饒化に影響を与えているということである。</p> <p>③ 対抗的公共圏の変容による親密圏の豊饒化に関しては、生活の再組織化において、社会関係資本のほかには、生活解体前より有していた当人の「資質」が果たす役割の重要性について明らかにした。</p>	
<p>業績リスト</p> <p>・論文 西川知亨、2009、「愛知の「派遣村」に訪れたある相談者の生活史 — 生活の解体と再組織化の視点から」『京都社会学年報』17、pp.1-28</p> <p>・報告 西川知亨、2009、「初期シカゴ学派の総合的社会認識の方法論的含意」関西社会学会第 60 回大会（京都大学）理論・学説 I 部会、2009 年 5 月 23 日</p> <p>・その他 西川知亨、2010、「シカゴ学派都市社会学のアジア「親密圏」分析への応用可能性 — グローバル化の原初理論としてのシカゴ学派社会学」、『GCOE ワーキングペーパー』、京都大学大学院文学研究科グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」</p>	

